

## 1 総則

- ◆ 小林哲夫・山元温彦・井村隆介（1989）：鹿児島県における最近3000年間の火山活動の編年、昭和63年度鹿児島大学教育研究学内特別経費研究成果報告書（代表研究者：小林哲夫）、3-8.

（このほか、以下の文献を参考にした。）

- 福岡管区气象台（1965）：噴火史、福岡管区气象台要報、第20号、77-85.
- 国土庁（1992）：火山噴火災害危険区域予測図作成指針.
- 奥野 充（1996）：南九州の第四世紀末テフラの加速器<sup>14</sup>C年代（予報）、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書、Ⅶ、89-109.

---

## 2 霧島山

- ◆ I<sub>MURA</sub>, R.、(1992) : Eruptive History of the Kirishima Volcano During the Past 22,000years. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan Univ.、 27、71-89.
- ◆ 井村隆介（1994）：霧島山の地質、東京大学地震研究所彙報、19、118-209.
- ◆ 都城市・小林市・えびの市・高原町・栗野町・吉松町・牧園町・霧島町（1996）：霧島山火山噴火災害危険区域予測図作成業務、報告書.
- ◆ 国土交通省宮崎河川国道事務所・宮崎県・鹿児島県(2008.03)：霧島火山防災検討委員会報告書

（このほか、霧島山火山噴火災害危険区域予測図作成業務において以下の文献を参考にした。）

- 井口正人・加茂幸介（1984）：火山爆発により放出される火山岩塊・レキの到達距離、京大防災研年報、26B-1、9-21.
- 伊田一善・篠山昌市（1951）：宮崎県加久藤天然ガス地質調査報告、地調月報、2、178-184.
- 井田喜明・山口 勝・増谷文雄（1986）：霧島火山における最近の地震活動と応力場、地震、2、39、111-121.
- 井田喜明・山口 勝・増谷文雄（1986）：霧島火山と加久藤カルデラの最近の地震活動、地震、2、39、595-605.
- 井ノ上幸造（1988）：霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史、岩鉱、83、26-41.
- 井村隆介（1992）：霧島火山群新燃岳 1991～92年の小活動、火山、37、281-283.
- 井村隆介・小林哲夫（1991）：霧島火山群新燃岳の最近300年間の噴火活動、火山、36、135-148.
- 井村隆介・古賀政行（1992）：霧島火山および入戸火砕流の<sup>14</sup>C年代、火山、37、99-1

02.

- 遠野 勇 (1966) : 霧島火山の岩石学的研究、岩鉱、56、56-74.
- 岡田 肇 (1985) : 霧島火山群の噴出物と発達史 (要旨)、火山、2集、30、315.
- 鍵山恒臣 (1994) : 霧島火山群における構造研究の意義—新しい火山学の構築のために—、東大地震研究所彙報、69、177-188.
- 鍵山恒臣 (1994) : 霧島—やや張力的応力場に生成した火山群. 地学雑誌、103、479-487.
- 鍵山恒臣・歌田久司・増谷文雄・山口勝・笹井民一・田中良和・橋本武志 (1992) : 霧島火山群新燃岳1991・92年微噴火と電磁気観測、地磁気観測諸技術報告、32、279-296.
- 気象庁 (1991) : 霧島山、日本活火山総覧 (第2版)、260-369.
- 砂防・地すべり技術センター (1993) : 霧島山噴火対策調査委託.
- 砂防・地すべり技術センター (1993) : 霧島火山砂防基本計画検討業務.
- 柴田秀賢 (1969) : 霧島火山形成史、地質雑、75、503-508.
- 震災予防調査会 (1916) : 霧島山噴火、日本噴火志、177-190.
- 種子田定勝 (1963) : 霧島東辺のPyroclastic flowについて (要旨)、地質雑、69、326.
- 種子田定勝 (1968) : えびの・吉松地域の地震と地質—特に霧島火山の構造に関連して—、火山、2集、13、61-73.
- 種子田定勝 (1977a) : 霧島火山の構成 (要旨)、火山、2集、21、124.
- 露木利貞・金田良則・小林哲夫 (1980) : 火山地域に見られる地盤災害とその評価(1) 霧島火山群に見られる崩壊型について、鹿児島大学理学部紀要 (地学・生物学)、13、91-103.
- 東京大学地震研究所火山体構造探査グループ : 霧島の構造探査と噴火予知、東京大学地震研究所火山噴火予知研究推進センター.
- 中村真人 (1985) : 第四紀テラフのもう1つの年代推定法 (要旨)、火山、2集、30.
- 中村真人 (1987) : 霧島火山群の活動変遷史—テラフによる噴火規模と年代推定の試み—、九州の後期新生代火山活動をめぐる諸問題、地団研専報、33、179-188.
- 波多江信広 (1956) : 霧島新湯温泉の山すべり、鹿児島大理科報告、5、37-54.
- 平林順一 (1986) : 火山ガス災害と化学的噴火予知の現状、火山、第2集、第30巻 特別号、327-338.
- 福岡管区气象台 (1965) : 霧島山、福岡管区气象台要報、20、47-59、98-99.
- 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台・宮崎地方气象台 (1959) : 昭和34年2月17日の霧島山新燃岳の爆発.
- 村山 馨 (1979) : 霧島山、日本の火山 (Ⅲ) —九州・南西諸島および付編—、73-90.

### 3 桜島

- ◆ 江頭庸夫（1981）：災害の評価、文部省科学研究費自然災害特別研究、「噴火災害の特性とHazard Mapの作製およびそれによる噴火災害の予測の研究」（研究代表者：下鶴大輔）、173-177.
- ◆ 福山・小野晃司（1981）：桜島火山地質図（1:25,000）、地質調査所.
- ◆ 小林哲夫（1982）：桜島火山の形成史と火砕流、文部省科学研究費自然災害特別研究、計画研究報告書「火山噴火に伴う乾燥粉体流（火砕流等）の特質と災害」（研究代表者：荒牧重雄）、137-163.
- ◆ 桜島火山噴火災害予測調査協議会（1994）：桜島火山噴火災害危険区域予測図作製業務報告書.

（このほか、桜島火山噴火災害危険予測図作成業務において以下の文献を参考にした。）

- 石川秀雄（1981）：桜島火山の噴火活動史、文部省科学研究費自然災害特別研究、「噴火災害の特性とHazard Mapの作製およびそれによる噴火災害の予測の研究」（研究代表者：下鶴大輔）、153-162.
- 石川秀雄（1992）：桜島、共立出版.
- 鹿児島県（1927）：桜島大正噴火史.
- 鹿児島県立博物館（1988）：大正3年桜島大噴火写真集、鹿児島県教育委員会.
- 鹿児島県防災会議（1991）：桜島爆発災害対策細部計画、16-29.
- 気象庁（1991）：桜島、日本活火山総覧（第2版）、370-389.
- O<sub>MORI</sub>、F.、（1916）：The SAKURAJIMA Eruptions and Earthquakes II. Bull. Imp. Earthq. Inv. Com.、8、2.
- O<sub>MORI</sub>、F.、（1916）：The SAKURAJIMA Eruptions and Earthquakes II. Bull. Imp. Earthq. Inv. Com.、8、6.
- 下川悦郎・地頭菌隆・小林哲夫（1991）：大正3年桜島噴火が火山周辺域の侵食に及ぼした影響、火山噴火が火山体とその周辺域の侵食に及ぼす影響、3-26.
- 震災予防調査会（1918）：震災予防調査会報告「日本噴火志（上編）」、191-200.
- 宇佐美龍夫（1987）：新編日本被害地震総覧、東大出版会.
- 山内豊聡・後藤恵之輔・村田秀一（1978）：シラス地帯の地震による災害の工学的予測について、第15回自然災害科学総合シンポジウム、267.

---

### 4 開聞岳

- ◆ 石川秀雄（1981）：開聞岳の活動史、噴出物調査と災害評価、文部省科学研究費自然災害特別研究成果No. A-56-1、自然災害科学総合研究班、噴火災害の特質とHazard Mapの作成

およびそれによる噴火災害の予測の研究、180-184.

- ◆ 中村真人（1967）：開聞岳の火山噴出物と火山活動史—とくに噴出物の量と時代関係について—、火山、第2集、12、119-131.
- ◆ 中村真人（1992）：開聞岳火山、日本の地質、共立出版、226-227.

(このほか、以下の文献を参考にした。)

- 気象庁（2013）：開聞岳、日本活火山総覧（第4版）、1374-1380.
- 永山修一（ ）：文献から見る平安時代の開聞岳噴火.
- 中村真人（1971）：開聞岳火山の岩石学的研究、地質学雑誌、77、359-364.
- 中村真人（1971）：指宿火山地域における新しい火山活動の可能性、火山、第2集、25、195-205.
- 成尾英仁・下山覚（ ）：開聞岳の噴火災害.
- Ui, T., YAMAMOTO, H. and SUZUKI-KAMATA, K. (1986) : Characterization of debris avalanche deposits in Japan, Jour. Volcanol. Geotherm. Res., 29, 231-243.

---

## 5 薩南諸島

(薩南諸島の火山については、以下の文献を参考にした。)

### < 5 - 1 薩南諸島一般 >

- 鹿児島県地学会（1991）：トカラ列島、鹿児島県地学のガイド、コロナ社、95-104.
- 小林哲夫（1995）：トカラ列島の火山、火山、第2集、30、45-47.
- 松本徭夫（1977）：琉球列島の第四紀火山、海洋科学、52-57.
- 松本徭夫（1983）：琉球列島における新生代火山活動、地質学論集、22、81-91.
- 松本徭夫（1985）：トカラ火山列、日本の地質誌、沖縄タイムス社、木崎甲子郎編著「琉球弧の地質誌」、35-49.
- 松本徭夫・松本幡郎（1992）：トカラ火山列、日本の地質9、九州地方、共立出版、232-233.

### < 5 - 2 薩摩硫黄島 >

- 阿多寛雄（1935）：昭和9年硫黄島噴火、地質学雑誌、42、212-213.
- 気象庁（2013）：薩摩硫黄島、日本活火山総覧（第4版）、1381-1398.
- 加藤祐三（1992）：鬼界カルデラ、日本の地質9、九州地方、共立出版、227-230.
- 松本唯一（1937）：硫黄島沖の海底噴火並に附近の火山地質（その一）、火山、20、144-162.
- 小野晃司・曾屋龍典・細野武男（1982）：薩摩硫黄島地域の地質、地域地質研究報告（5万分の1図幅）、地質調査所、80.

- 田中館秀三（1935）：鹿児島県下硫黄島噴火概報、火山、18、188-209.
- 田中館秀三（1939）：薩南硫黄島（昭和硫黄島）発達の過程、地質学雑誌、46、279-280.

### < 5 - 3 口永良部島 >

- 荒牧重雄（1969）：口永良部島地質調査報告、火山、第2集、14、127-132.
- 本間不二男（1934）：口永良部島の火山地質と火山活動（一）、火山、第1集、1、20-39.
- 本間不二男（1934）：昭和八年十二月乃至昭和九年一月の口永良部島新岳の火山活動、地球、21、243-266.
- 藤野直樹（1988MS）：口永良部島火山の地質、鹿児島大学理学部地学科卒業論文.
- 気象庁（2013）：口永良部島、日本活火山総覧（第4版）、1399-1420.
- 気象庁観測部地震課（1976）：口永良部島新岳の震動観測、噴火予知連絡会会報、5、40-44.
- 京都大学防災研究所・東京工業大学工学部・鹿児島大学理学部（1981）：1980年（9月28日）の口永良部島新岳の噴火（概報）、噴火予知連絡会会報、20、1-9.
- 松本唯一（1934）：口永良部島の地質に就いて、火山、第1集、2、20-39.
- 田中館秀三（1938）：口永良部島新岳噴火と火口の形態及び向江浜の山津浪、火山、18、339-354.

### < 5 - 4 中之島 >

- 生田正文（1992MS）：トカラ列島中之島および口之島火山の地質.
- 気象庁（2013）：中之島、日本活火山総覧（第4版）、1427-1434.

### < 5 - 5 諏訪之瀬島 >

- 平沢晃一・松本幡郎（1983）：鹿児島県トカラ列島諏訪之瀬島の火山地質、火山、第2集、28、101-115.
- 気象庁（2013）：諏訪之瀬島、日本活火山総覧（第4版）、1435-1452.
- 松本幡郎（1964）：鹿児島県トカラ諸島諏訪之瀬島御岳火山の1960年活動について、火山、第2集、9、57-62.